

参考資料13

分類名〔病害虫〕

## 小麦開花期とコムギ赤かび病発病リスクの関係

宮城県古川農業試験場

### 1 取り上げた理由

ムギ類赤かび病は、子実の品質低下や減収を引き起こすばかりでなく、病原菌が人畜に有害なかび毒であるデオキシニバレノール、ニバレノールを産生することからも、ムギ病害の中で最も重要な病害とされている。現在、発病の予察手法としては前年の発病程度（伝染源）および天気予報（温度、降雨）によるものしかない。今回小麦の開花期と発病穂率との関係を解析したところ、一定の相関関係が見られたことから、参考資料とする。

### 2 参考資料

- 1) シラネコムギ、ゆきちからの開花期と発病穂率との間に負の相関関係が認められ、開花期が早くなるほど発病リスクが高くなる（図1）。

### 3 利活用の留意点

- 1) 普及に移す技術第88号の「小麦の幼穂長による開花期予測」を用いて予測した開花期が5月21日（参考：古川農試作況ほ平均開花期 シラネコムギ5月21日、ゆきちから5月22日）より早まるような場合、発病穂率が高くなることから、赤かび病の防除体系（普及に移す技術第84号「コムギの赤かび病に対する防除体系」）実施を徹底する。
- 2) シラネコムギの開花期、発病穂率のデータは平成22～28年の7か年間、ゆきちからの開花期、発病穂率のデータは平成18～28年の10か年のデータを使用した。試験は古川農試内ほ場で接種条件下で行った。

#### 4 背景となった主要な試験研究

##### 1) 研究課題名及び研究期間

寒冷地における小麦の開花期予測と追加防除要否判定技術の開発（受託プロ：平成20-24年度）

小麦品種「あおぼの恋」等赤かび病防除体系の検討（県単：平成25年度）

小麦赤かび病のモニタリングと防除体系の検討（農薬安全使用指導事業：平成26-28年年度）

##### 2) 参考データ

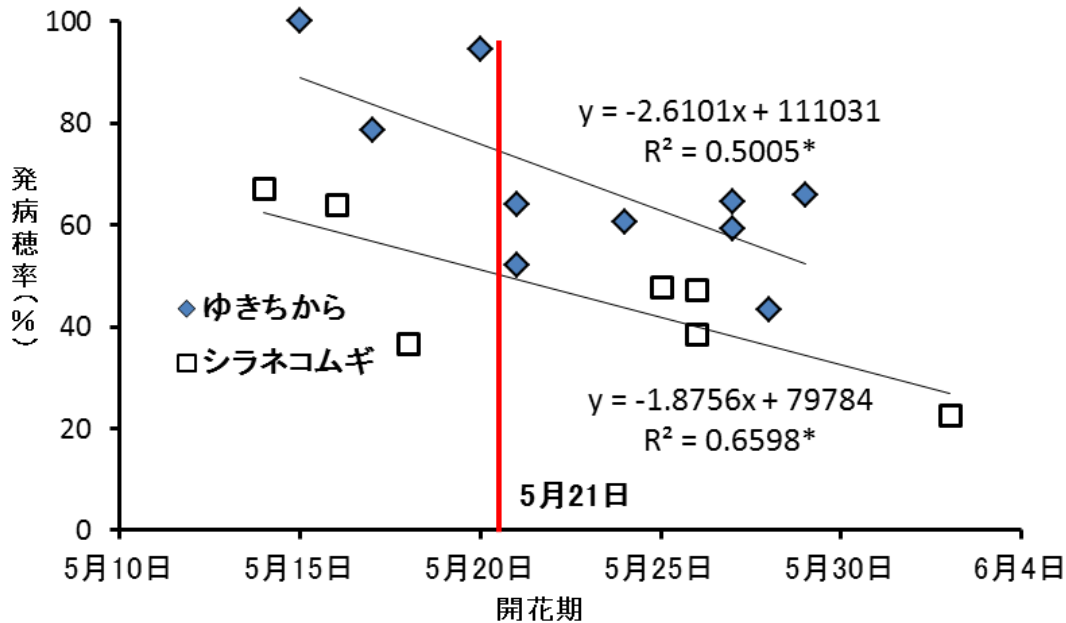


図1 開花期と発病穂率の関係

##### 3) 発表論文等

###### a 関連する普及に移す技術

コムギの赤かび病に対する防除体系（普及に移す技術第84号）

小麦の幼穂長による開花期予測（普及に移す技術第88号）

###### b その他

なし

###### c 引用した文献など

a) 上田 進（1995）ムギ類赤かび病の発生予察・防除ならびにマイコトキシン汚染防止に関する研究，愛媛県農業試験場研究報告第33号

##### 4) 共同研究機関 農研機構九州沖縄農業研究センター